

## 輸入粗飼料の情勢

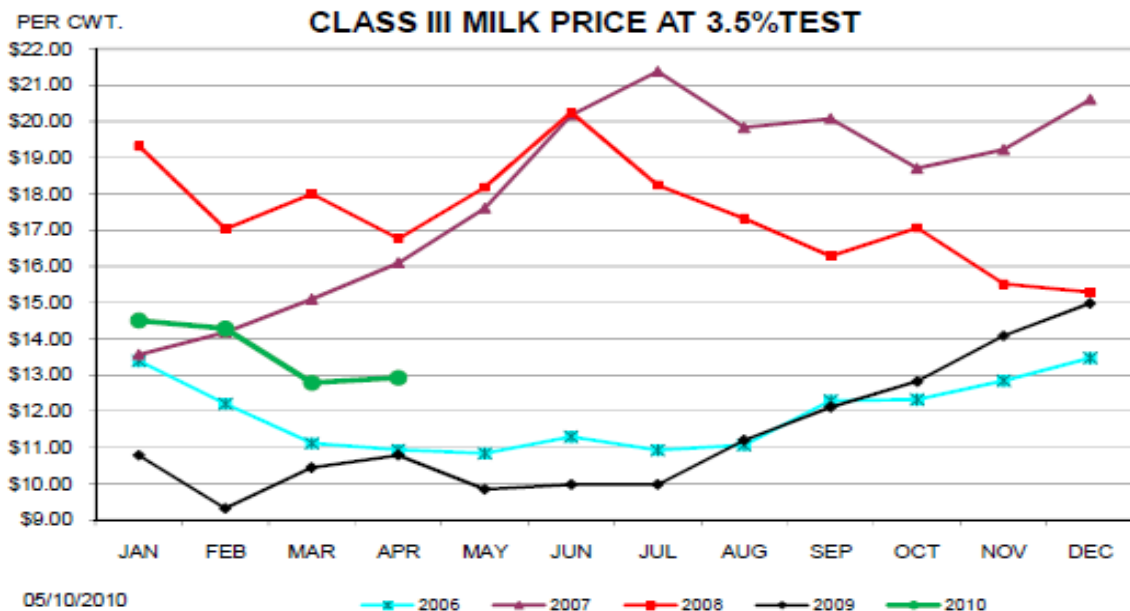
全酪連購買部  
購買推進課

### 北米コンテナ船情勢

一部船社で6月中にGR I（General Rate Increase：基礎レート）値上げが実施されますが、WTSA（Westbound Transpacific Stabilization Agreement）加盟の船会社による7月1日付けのGR I 値上げは回避される見込みです。カナダ航路については依然としてタイト気味なため、7月1日からGR I の\$200値上げが予定されています。

米国から日本向けのコンテナ船はスペースに少し余裕が出てきているため、各船会社とも値上げには慎重な姿勢となっています。一方で、昨年はコンテナの新規製造をしていない船会社がほとんどなので、コンテナ不足が深刻な問題となりそうです。

### 米国の乳価動向



米国の乳価（上記グラフ参照：クラスⅢチーズ向け）は先月とほぼ同じで、低調に推移しています。米国内酪農家の多くは、乾牧草（特にアルファルファ）が直近の分しか買えないような厳しい経営状態が依然として続いているため、10年産乾

牧草の国内からの引合いは09年産に続いて低調に推移すると見込まれています。

## UAE・中国需要動向

米国産アルファルファ輸出量 (MT) 2010年は1-3月

	2007年	シェア	2008年	シェア	2009年	シェア	2010年	シェア
日本	490,106	66%	558,492	61%	686,212	44%	138,351	46%
韓国	134,489	18%	159,352	17%	170,022	11%	32,143	11%
<b>UAE</b>	<b>27,946</b>	<b>4%</b>	<b>103,419</b>	<b>11%</b>	<b>486,010</b>	<b>31%</b>	<b>44,479</b>	<b>15%</b>
台湾	54,227	7%	51,248	6%	47,918	3%	18,628	6%
<b>中国</b>	<b>2,321</b>	<b>0%</b>	<b>19,348</b>	<b>2%</b>	<b>74,986</b>	<b>5%</b>	<b>42,267</b>	<b>14%</b>
ベトナム	1,117	0%	1,248	0%	1,817	0%	994	0%
その他	38,299	5%	24,951	3%	80,224	5%	24,595	8%
計	748,505	100%	918,058	100%	1,546,189	100%	301,457	100%

特に昨年からUAE（アラブ首長国連邦）向けの米国産アルファルファが驚異的に数量を伸ばして輸出され始めましたが、中国への乾牧草輸出数量も増加しつつあります。3月はUAE向けが16,633トンに対して、中国向けが22,210トン（日本向けは47,425トン）となっており、単月で始めて中国向けアルファルファの輸出数量がUAE向けを上回る結果となりました。

今後もUAEや中国と、さらにUAE周辺の中東各国から、アルファルファを中心とした米国産乾牧草の引合いは増え続けると見込まれています。米国内からの引合いが低調にもかかわらず、アルファルファの産地価格が値上げ基調にあるのは、日本向けのみならず、UAEや中国向けの強い下支えがあるため、とも考えられています。今後も動向に注意が必要です。



中東向け3タイ牧草のラップに貼られたシール



中国の国際酪農展示会で出展するサプライヤーの写真  
ともに米国サプライヤーにて5月撮影

## ビートパルプ

### <米国産>

10年産ビート大根の作付けは、全ての地域で終了しました。作付面積はほぼ前年比1-2%程度の増加、1,170,000エーカー程度と予想されています。09年産は降雨続きと寒波到来が早く予定よりも収量が多くなかったため、10年産はその反動でビートパルプの生産量は前年対比で増加が見込まれています。今後の天候次第ですが、順調に推移すれば収穫開始は前年より2週間ほど早まる可能性があります。日本向け主力のレッドリバーバレー地区でも、前年より3週間ほど早く作付けが終了しています。

### <中国産>

韓国の輸入統計によると、4月のビートパルプ総輸入量は10,481トンで、そのうち中国産は全体の1割程度に留まり、引続き減少が続いています。中国産から他産地への移行が着実に進んでいると推測されます。

砂糖の価格が歴史的に高い水準にあり、中国の国内需要も増加していることから、10年産の中国産ビート大根の作付面積は増加しているの見込まれています。ビートパルプの生産量も増加する見込みです。しかしながら、国内需要の増加を背景に輸出余力はむしろ低下するとも考えられています。今後の推移に注意が必要です。

## アルファルファヘイ

### <ワシントン産>

コロンビアベースンでは5月以降に低い気温が続いており、生育は遅れ気味となっています。現在も断続的に降雨が続いており、生産農家は刈取りのタイミングを見計らっている状況です。コロンビアベースン南部の刈取りが終了している圃場では、大半が雨当たり被害を受けている模様です。北部では刈取りを待っている状況ですが、刈取りを始めなければ2番刈以降のスケジュールや4番刈の収穫に影響が出る可能性があることから、天候の安定を待たなくとも、やむを得ず刈取りが開始される圃場も出てくると考えられています。10年産の1番刈良品はますます限定的なものとなり、価格も09年産の繰越在庫がほとんどないまま10年産を迎えることになるので、高騰する可能性もあります。



ワシントン州コロンビアベースン 5/11撮影

#### <オレゴン産>

クラマスフォールズでは、水源のカスケード山脈でこれまで思ったよりも降雨量と積雪量が少ないため、水不足の懸念がささやかれています。今後の天候次第ですが、3番刈以降の作柄に影響があるかもしれない、という見方も出てきています。また、例年より冷涼な気候のため、生育が遅れているため収量減も懸念されています。1番刈の刈取りは6月第1週から開始する見込みです。

クリスマスバレーでもまだ寒い気候が続いており、丈は15-25cm（5月15日時点）とのことです。1番刈の刈取りスケジュールも2週間程度遅れる見込みで、6月第2週あたりと見込まれています。こちらでも収量減が懸念されています。

#### <ネバタ産>

ネバタ州ではUAEからの引合いの影響もあり、BIGベールの生産が増えると予想されています。この地域でも生育は遅れ気味で、1番刈の刈取りは6月第1週から開始する見込みです。

#### <カリフォルニア産>

インペリアルバレー産は、1番刈は雨当たり品がほとんどで、2番刈は逆にローグレード品が限定的で、プレミアム品が多く発生しているようです。現在は3番刈の刈取りが進んでいます。プレートがPNW地域に比べると競争力があるため、UAEや中国からの買付けも積極的にされているようです。そのため、産地価格は前年と比べて高めで推移しています。

北カリフォルニア産は、1番刈の刈取りが終了しました。刈取り時の天候が不安定だったため、全体の7割程度の圃場で雨当たり被害が発生しているようです。こ

の少ない1番刈良品に引合いがあり、産地価格は上昇傾向にあります。一部圃場で2番刈が開始されています。冷涼な気候のため、1番刈に似たような良品の発生も期待されます。

#### <ユタ産>

ユタ州でも冷涼な気候が続いており、生育は例年より10-15日程度遅れています。1番刈の刈取りは6月15日前後から開始する見込みです。



ユタ州アルファルファ1番刈圃場 5/13撮影

## チモシー

#### <米国産>

5月以降に低い気温が続いており生育は遅く、刈取りはまだ始まっていません。例年より2週間程度遅く、コロンビアベースンでは6月第3週から、エレンズバーグでは6月第4週から1番刈の刈取りが開始する見込みです。冬場のダメージ（雪のカバーがなかったことによる根腐れ）を受けた圃場もあり、また強風のダメージもあり、収量減も懸念されています。各サプライヤーとも、09年産の繰越在庫がほとんどないまま10年産を迎えることになるので、日本からのハイグレード品の強い引合いがいつ落ち着くかにもよりますが、10年産の産地価格は09年産以上に高く推移すると予想されています。

#### <カナダ産>

産地では4月まで乾燥気味の気候が続いていましたが、5月に降雨があり、土壌水分も十分で良好な状況です。今後の天候次第ですが、レスブリッジでは7月上旬から、ドライランド（中央アルバータ）では8月上旬から1番刈の刈取りが開始する見込みです。作付面積も5%程度の増加が予想され、価格軟化を期待したいところですが、フレートの上昇、カナダドル高を考えると、10年産の価格は楽観視で



きない状況にあります。

## スーダングラス

インペリアルバレー産は、10年産のスーダングラス作付面積については5/15時点でのエーカーレージレポートによると、前年対比197%の49,655エーカーとなっています。例年に近い50,000-55,000トン（09年産は32,000エーカー）までになるのでは、と予想されています。例年より2週間程度遅く、6月上旬から本格的に1番刈の刈取りが開始する見込みです。早播きのスーダングラスの増加により、良品の生産量増が期待できる環境ではありますが、09年産の不足感からハイグレード品の引合いが日本から強まると、価格を下支える要因にもなりかねず、注意が必要です。

北カリフォルニア産は、小麦など他の農産物の相場価格が不安定なことから、10年産のスーダングラス作付面積については、インペリアルバレー産と同様に増加することが予想されています。

## クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

インペリアルバレーでは、10年産のクレイングラス作付面積については5/15時点でのエーカーレージレポートによると、前年対比87%の12,172エーカーとなっています。5月初旬から1番刈の刈取りが開始されていますが、ここ数ヶ月の降雨の影響で雑草が多くみられるようになったので、輸出向け（特に日本向け）に問題ない品質か、買付け時には注意が必要です。また、産地ではUAE向けに10年産クレイングラスの大量成約が進んでいる模様で、成約数量は15,000トンとも言われています。

①作付面積減、②雑草混入による良品減と混入防止のためのクリッピング（掃除刈り）による収量減、③UAE向け引合いと取られた業者による高値買付けの懸念、の3つの理由から、10年産は良品不足と産地価格値上げが懸念されています。



クレイングラス検品時写真（右スタックは雑草が散見される） 5/20撮影

## ストロー類

種子の相場価格が依然として悪いため、10年産のストロー類は大幅な減産が予想されています。現時点ではライグラスは20%、フェスキューは25-30%の作付面積減少が予想されています。各サプライヤーとも、09年産の繰越在庫がほとんどないまま10年産を迎えることになるので、早くも供給不足が懸念されます。

## 豪州産オーツヘイ

西豪州では5月22-23日に15-30mm程度の降雨があり、土壤に十分な水分が含まれ、オーツを始め各穀物の播種作業が一斉に始まりました。例年より1ヶ月前後遅い作業開始となりました。南豪州では5月上旬に播種が始まり、ほぼ全域に30mm程度の降雨がありました。

09年産は、各サプライヤーともローグレード品は荷動きが悪く、また中間グレード品は発生量が多かったために、ともに数量に余裕があるようです。価格軟化が予想される10年産米国産スーダングラスが本格的に始まる前に、各サプライヤーとも在庫が多いグレードについては、価格対応等により早めの販売へと動くことも考えられますが、コスト面では厳しく、金利倉敷料分の値上げ見送り程度に留まるとの見方もあります。

以 上